

かけがえのない日々

大連理工大学
コウブンキ

あっという間に交換留学が終わりを迎え、この作文を書きながらこれまでの日々を振り返ると、言葉では語れないほど感慨深い気持ちになります。

日本に来たばかりの頃は、初めての海外生活に不安や戸惑いを感じる日々が続いていました。日本での生活は想像していたほど簡単なものではなかったからです。例えば、買い物の際に、パッケージに書かれた日本語が分からず、インターネットで調べても理解できないことがありました。そのようなとき、日本で生活する友人たちがいつも親切に教えてくれ、本当に助けられました。この経験を通して、教科書で学んできた日本語だけでは、実際の生活を円滑に送ることはできないのだと強く感じました。この半年間の留學生活を通じて、実用的な日本語を少しずつ身につけられたことを、大変うれしく思っています。

去年の今頃、私は今回の交換留学に応募すべきかどうか迷っていました。しかし今振り返ると、この決断は自分にとって正しい選択だった感じています。この留学を通して、私は多くの風景に触れ、世界中から来た人々と出会い、かけがえのない縁を結ぶことができました。将来への不安を抱くことが多かった私ですが、この半年間は、皆さんと共に過ごす時間を楽しむ中で、少しずつ心が軽くなっていきました。今後どのような困難に直面したとしても、この素敵な日々を思い出すことで、再び前を向いて進む力を得られると思います。

最後に、私を精神的にも経済的にも支えてくれた家族に、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。家族の支えがあったからこそ、私はこの貴重な経験を得ることができました。また、先生方や友人の皆さん、そして温かく迎えてくださったすべての方々にも深く感謝しています。これから皆さんと再びお会いすることは難しいかもしれませんが、皆さんとの貴重な思い出を、これからも大切にしていきたいと思います。そして、皆さんがどこにいても、健康で力強く、そして自分らしい人生を歩んでいかれることを心より願っています。

